

# 東舞子

2019/1/7 (1月号)

神戸市立東舞子小学校

平成30年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

実のある深い学び、よりよい人間関係づくりを目指して

校長 古池 茂

明けましておめでとうございます。本年も教職員一同、子供たち、保護者の方々、地域の方々から愛され信頼される学校づくりに取り組んでまいりますのでよろしくお願ひ申し上げます。さて、昨年の暮れ、2018年を表す漢字1文字「災」が報道されました。本校においても6月には(登校時間に)地震があり子供たちを避難させたり、台風や大雨により臨時休校となったりするなどの影響がありました。本年はそうした災害が無いことを願っていますが、災害が起きても子供たちが安心して過ごせる学校の体制(安全な施設・教職員の組織的対応)をこれまで以上にしっかりと築いていこうと思っています。

さて、2020年度から学習指導要領の本格実施となり、子供の学び方が大きく変わると言われています。それは、数十年後の世の中が大きく変わる(予測不能な時代)ことへの備えのためです。困難なことがあった時、自分自身で考え判断し、多様な人々と声を掛け合い協力して対応するためです。東舞子の子供たちにもそうした生き抜く力を育んでいきたいと考えています。

## ① 「主体的、対話的で深い学び」のある学習

子供たちが受身でなく自分ごととして主体的に学習に取り組むこと、友達の考えもよく聞きながら自分の考えに取り込みよりよい考えをつくること、そして、学習したことが単なる知識ではなく、実のある深い学びになってほしいです。例えば総合的な学習の時間、本校では、福祉教育、食育、平和学習等に取り組んでいます。関心のあることを自分ごととして夢中になって追求し、友達と話し合いながらよりよい考えを作り出し、学んだことを他学年の人たちに伝えることで、学んだ知識が意味のあるものになり、より確かなものとなります。

東舞子の子供たちは、素直で真面目に学習活動に取り組んでいます。さらに、友達とともによりよい考えを創り出し、実際の社会の中で生きて働く知識として生かせる学習の仕方を身につけてほしいと思います。

## ② よりよい人間関係づくり

人間関係づくりを担っているのが「特別活動」と呼ばれる教育活動です。学級活動や委員会活動、クラブ活動、学校行事等で、自分の考えを積極的に出し合い、折り合いをつけながら集団の意見をつくり上げていきます。そのまとまった意見をもとに、子供たちが主となり実践活動をしていきます。自分たちが考えたことを自分たちの力で実践します。この自発的、自治的な活動という面が教科学習とは違う特別活動の特徴です。こうした友達との話し合い活動や実践活動を積極的に行うことでよりよい人間関係が育まれます。

東舞子の子供たちは友達とよく関わり楽しく過ごしています。学級の友達がもっと仲良くなるにはどのようなことができるかを学級活動で話し合ったり、学校でけがをしないように心掛けることを委員会活動で話し合ってみたりするなど、よりよい学級・学校をつくるにはどうしたらよいかを子供たち自らが考えていけるような学校にしていきたいと思っています。

昨年は、保護者、PTA、苔谷コミュニティ、星陵台ふれまち協議会の方々、青少協、その他地域の方々に、登下校の見守り活動や様々な催しなどで大変お世話になりました。本年も子供たちの健全育成のためにお力添えをいただけますよう、よろしくお願ひいたします。